

がん政策サミット版: がん計画「いいとこ取り」ロジックモデル
～都道府県がん対策推進計画中間評価のための参考資料～
活用にあたり

2020年度は、都道府県のがん計画の中間評価年度に当たります。中間評価は、計画の後半が改善され、地域の患者さんの状態がさらによくなるかを左右する、重要な作業と考えられます。当NPOでは、中間評価作業が「正しく、効果的、効率的に」行えるための支援ツールとして、『誰にでもできる! がん計画 中間評価 ガイドブック』を提供しています。

ガイドブックにあるように、中間評価作業においては、ロジックモデル（計画の目的と施策の関連図）が作成されていることが前提となります。ただ、まだロジックモデルを作成していない都道府県が多数であるのが現状です。そこで、このたび当NPOは、都道府県のがん計画の柱建てに近いかたちで13枚の分野別ロジックモデルを作成し提供することといたしました。

各地域での各分野の評価作業にご活用ください。ロジックモデルの書き方に唯一絶対の正解はなく、あくまで参考として作成いたしましたので、地域のみなさまで地域に合ったロジックモデルを作り上げていく際の一助にしていれば、幸いです。

これまでは、必ずしも中間評価が行われるとは限りませんでしたし、行われたとしても、施策を実施したかどうかだけの実行（プロセス）評価に留まっていたのが実情でした。しかし、現在では、施策が「患者さんなどの状態に成果（アウトカム）もたらしたかどうかの効果（インパクト）を評価」した上で、必要な改善を行うことが求められています。その作業は、目的とする患者さんの状態を記載するロジックモデルを作成しておくことによって、スムーズに行うことができます。つまり、ロジックモデルは施策が地域の患者さんに届いているかどうかを見極めるために重要な役割を果たします。

患者さんに効果が届くように施策がより高められる中間評価が行われるため、本資料が一助になれば幸いです。

注1: なお、本資料では各都道府県で共通点が多いであろう分野アウトカムと中間アウトカムを記載しており、都道府県によって独自性が含まれることの多いであろう施策欄は記載せずに記入欄のみ示していますので、追記してご活用ください。

注2: この資料は、①国の第3次がん対策推進基本計画、②2018年（平成30年）4月から実施された都道府県がん対策推進計画③第16回がん政策サミット2018グループワークで作成した“いいとこ取りロジックモデル”④地域医療計画等の関連資料——などを参考に、NPO法人がん政策サミットが作成いたしました。